

平成 22 年  
2 月 24 日

# 病害虫発生予報 3 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう

## < 目 次 >

### ・ 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
促成キュウリ：うどんこ病	1
促成キュウリ：菌核病，褐斑病	2
施設野菜(促成キュウリ，イチゴ，促成トマト，促成・半促成ピーマン)：灰色かび病	3

【その他の病害虫】	4
イチゴ，促成・半促成ピーマン，促成トマト，促成キュウリ，メロン，春ハクサイ，春レタス	

### ・ 病害虫ミニ情報

水稻育苗中に発生する病害等の対策について	6
----------------------	---

・ 今月の気象予報	7
-----------	---

・ テレホンサービス	7
------------	---

029(226)5321

本文に記載された農薬の登録内容は，平成 22 年 2 月 3 日現在のものです。

農薬登録速報については，農林水産省ホームページ「農薬コーナー」

<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/index.html> 内の登録速報を参照してください。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

ナ シ

1. 黒星病

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い～多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

昨年 10 月中旬の調査で、ナシ黒星病秋型病斑の発病度及び発生地点率は過去 8 年間と比べてやや高く、また秋季にまとまった降雨があったことから、ナシ黒星病菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。

気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年より多いと予想され、発生を助長する条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

昨年の被害葉は一次伝染源となるため、園内に落葉が残っている場合は、集めて土中深く埋めるか、ロータリ耕によりすき込む。

催芽～萌芽期（3 月下旬頃）に薬剤防除を行う。薬剤散布は、かけむらのないよう丁寧に行う。薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

（平成 21 年 10 月 21 日発表の病害虫情報 No.11 参照）

促成キュウリ

1. うどんこ病

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

2 月下旬現在、発病葉率は平年より高く、発生地点率は平年よりやや高い。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。

薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で、丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

## 2. 菌核病

### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	多い	県下全域

### [ 予報の根拠 ]

2月下旬現在，発病果率，発生地点率ともに平年より高い。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年より多く，日照時間は平年より少ないと予想され，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

### [ 防除上注意すべき事項 ]

罹病部は新たな伝染源となるため，できるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。

## 3. 褐斑病

### [ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
	やや多い	県下全域

### [ 予報の根拠 ]

2月下旬現在，発病葉率は平年よりやや高く，発生地点率は平年並である。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年より多く，日照時間は平年より少ないと予想され，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

### [ 防除上注意すべき事項 ]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

施設野菜（促成キュウリ，イチゴ，促成トマト，促成・半促成ピーマン）

1．灰色かび病

〔予報内容〕

発生時期	発生量	発生地域
平年並	促成キュウリ：多い	県下全域
	イチゴ，促成トマト， 促成・半促成ピーマン ：平年並～やや多い	

〔予報の根拠〕

2月下旬現在，発生量は促成キュウリで多く，イチゴ，促成トマト，促成・半促成ピーマンでは平年並である。

気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年より多く，日照時間は平年より少ないと予想され，ハウス内は多湿になりやすく発生を助長する条件である。

〔防除上注意すべき事項〕

ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。

花落ちが悪い花卉や，罹病部は早急に取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。

薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	コナジラミ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	アブラムシ類	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並からやや多い発生である。
促成・半促成ピーマン	斑点病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	うどんこ病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
促成トマト	疫病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハモグリバエ類	発生量：多い	2月下旬現在，平年より多い発生である。
促成キュウリ	ミナミキイロアザミウマ	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ハモグリバエ類	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
メロン	べと病	発生量：平年並 ～やや多い	2月下旬現在，平年並の発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。
	つる枯病		
	菌核病		
春ハクサイ	べと病	発生量：平年並	2月下旬現在，平年並の発生である。
春レタス	菌核病	発生量：やや多い	2月下旬現在，平年並～やや多い発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。トンネル内が多湿にならないよう，日中は換気を十分に行う。
	腐敗病	発生量：やや多い ～多い	2月下旬現在，平年よりやや多い発生である。向こう1か月の天気は平年に比べ降水量が多く，日照時間は少ないと予想され，発生を助長する条件である。トンネル内が多湿にならないよう，日中は換気を十分に行う。

## 水稲育苗中に発生する病害等の対策について

水稲の育苗中に発生する主な病害には、いもち病やばか苗病などの糸状菌(カビ)によるものと、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病の細菌によるものがあります。これらは病原菌に汚染された種子が主要な伝染源であり、種子消毒が有効です。この他、フザリウム菌やリゾプス菌などの糸状菌による苗立枯病は、土壌や育苗資材が主要な伝染源で、対策として病原菌のない用土や資材を用いることが重要です。また、緑化期までは鳥害(スズメなど)が問題となることもあります。

いずれも、被害程度によっては田植えに際して苗が不足することになります。いったん被害が生じてしまうと回復させることは困難なので、最大の対策は予防です。

### 対 策

#### 1 種子消毒

- 1) 種子は、毎年更新します。通常の採種圃産種子は、農薬(モミガードC・DFおよびスミチオン乳剤)が籾表面に吹き付け処理されています。これを用いて浸種作業を行うと、農薬が水に溶け出して薬効が現れます。
- 2) 未消毒の種子を使用する場合には、化学農薬、生物農薬、温湯消毒のいずれかを選んで種子消毒を実施します。また、イネシンガレセンチュウも種子伝染するので、スミチオン乳剤等または温湯消毒で防除します。

#### 2 育苗前の作業について

- 1) 前年使用した育苗箱は、よく洗浄し、ケミクロンGまたはイチバンで消毒します。
- 2) 育苗用土は、pH(H<sub>2</sub>O)4.5~5.5の殺菌されたものを用います。自分で用土を用意する場合はpHを調整し、苗立枯病の対策として農薬を用土に処理します(処理方法は各農薬のラベルで確認してください)。農薬にはダコニール1000、タチガレエース液剤、バリダシン液剤5、ダコニール粉剤、タチガレエース粉剤などがあります(平成22年2月3日現在)。  
**なお、農薬を処理する際には、他の作物を栽培する場所では行わないようにします。**
- 3) 育苗ハウスの床は整地して平らにしておきます。床が平らでないと部分的に水が溜まり、そこが過湿となって病害が発生しやすくなります。

#### 3 育苗中の管理について

**育苗中の極端な低温や高温は、病害の発生を助長します。育苗ハウス等の温度管理には十分注意します。**

- 1) 出芽時の温度は28~30とし、必要以上に高めないようにします。出芽が悪いからといって温度を高めると、病害の発生を助長します。浸種時に適温でじっくり吸水させてから鳩胸状態まで催芽(芽出し)して播種することが大切です。
- 2) 緑化期(出芽揃い~本葉第1葉期)までは、昼間は20~25、夜間は15~20とします。
- 3) 硬化期は、昼間は20~25、夜間は10~15とします。
- 4) 緑化期、硬化期は加湿にならないように注意し、灌水量は、夕方には覆土の表面がやや乾く程度とします。

#### 4 鳥害について

籾に胚乳が残っている間は、鳥害を受けるおそれがあります。スズメの場合、人家、電線、樹木近くで被害が大きいとされます。育苗ハウスの開口部に防鳥ネットを張って侵入を防止するのが確実な方法です。スズメでは、防鳥ネットの網目は、目合い20mmで実用上の問題はないものの時々通り抜けて進入する場合がありますが、目合い10mmなら確実に防げる、とされています。また、網と地面、網と網などの継ぎ目に隙間ができないようにしておかないと効果がありません。

## . 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 2月20日から3月19日)

気象庁(2月19日 発表)

#### <特に注意を要する事項>

関東甲信地方では、この先気温が高くなり、期間の前半はかなり高くなる可能性もあります。

#### <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	20	70
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[ 概要 ]

天気は、数日の周期で変わるでしょう。平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

<1週目の予報> 2月20日(土曜日)から2月26日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

<2週目の予報> 2月27日(土曜日)から3月5日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

<3週目から4週目の予報> 3月6日(土曜日)から3月19日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 50%

## . テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために、病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号：029(226)5321

3月上旬 施設野菜の病害対策

3月下旬 水稻育苗期間中の病害対策

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず、良く洗浄しましょう。